

淫魔デリヘル（仮題）

【あらすじ】

淫魔デリヘルサービス「ハニーポットハニー」は、最近できたばかりの会社。ヒロインは普通の女性向けデリヘルのもりで、淫魔デリヘルを呼んでしまう。人外の柚原が来たことに戸惑ったものの、なし崩し的に施術を受け、しっかりと淫魔デリヘルにどハマりするのだった……………

【登場人物】

・ 柚原（ユハラ）

今までフリーでやってた淫魔。

名前がやけに和風なのは、長年日本で活動してきたから、最近魔界で淫気のSDGs性が注目され始めたので、

いっちょ時代に乗ってみるかとデリヘル業を始めた。性感帯は尻尾。穏やかな物腰だが、それは実力に裏付けられた自信によるもの。

今は一人で淫魔デリヘルをやっているが、いずれ社員を雇って大きなビジネスにしたい。

・ ヒロイン

毎晩悶々としている。

今回意を決して女性向けデリヘルに連絡をしてみたが、間違って淫魔デリヘルに繋げてしまった。

風俗初心者なのでオドオドしているが、だんだん慣れてくる。性豪。

【本編にちゃんとは出てこないけどある概念（読まなくても大丈夫です）】

・淫気

人間が性行為をすると発される気で、人間には使い道がないが、

悪魔たちにとっては魔力に変換が可能なありがたいエネルギー源

他に絶望や嫉妬やマイナスの感情からも魔力を採取することは可能だが、

淫行による採取は人間を死に至らしめる可能性が低いため、

持続可能性が高く、近年の魔界のトレンド資源となっている。

淫魔デリヘルの目的は淫気の回収なので、

呼び出し価格は女性向け風俗の中でも安い方となっている（無料は怪しすぎ

るため）

トラック① こちら淫魔出張サービス
普通の女性向けデリヘルと間違えて、
淫魔デリヘルに電話をかけてしまうヒロイン

SE:発信音

【※ここから電話音声】

【電話口から（7？） 爽やかに】

柚原「はい、お電話ありがとうございます。」

インキュバスデリヘル、ハニーポットハニーです
今からのご利用でしょうか？」

【ヒロイン「はい】

柚原「この時間帯ですとキャストはおまかせになってしまいましたが、
それでも構いませんか？」

【ヒロイン「大丈夫です】

柚原「かしこまりました、ではすぐにお伺いします。」

え、住所ですか？ 大丈夫ですよ、そんなのなくても分かりますから
今向かっておりますので：そうだな、あと五秒くらいかな？
行きますよ。5、4、3、2、1」



【淫魔パワーで逆探知して家にやってくる柚原】

SE:窓を外側から叩く音

SE:窓開けガラッ

SE:外から微かな風の音

【※通話ここまで】

【16 窓外側からひょっこり顔を出して】

柚原「ね、すぐだったでしょ？」

【ヒロイン、突如窓辺に現れた柚原のヤバさに思わず窓を閉めにかかる】

SE:ヒロインがベッドの上で素早く動く衣擦れ

SE:窓を無理やり閉めようと試みるガツみたいな音

【8】

柚原「あぁっ、閉めないで！ ちょっと！」

【閉めるヒロインと開ける柚原。最終的に力勝ちして窓を開けきる】

柚原「くっ……ふん……っ……」

あ…力つよ……！

もう……！ ううん!! 【窓をこじ開ける】



SE:窓ガラッ

SE:柚原が部屋に入り込んでくるガサゴソ

【8↓1 窓から入ってヒロインの正面へ】

柚原「ど、どうしていきなり窓を閉めたんですか!?

そっちが呼んだってのに、どうしてそんなひどいことを」



【ヒロイン「呼んだ…?」】

【1】

柚原「あなたが電話して、おまかせで良いって言ったんじゃないですか。

こんばんは、ハニーポットハニーの柚原(ユハラ)です」

【ヒロイン、柚原の容姿(ツノ羽尻尾)を指し「悪魔……?」】

柚原「失礼な、悪魔だなんてガサツに呼んで。

僕は淫魔です、いーんーま。

一応それぞれにプライドがあるので、

ちゃんと呼び分けていただけると嬉しいですね

羽やツノがあるくらいで、一緒にたにしないでくださいよ」

【ヒロイン「淫魔……」】

【1】

柚原「わからないで呼んだんですか？

ちゃんと、ホームページに書いてあったでしょ、

女性向けインキュバスサービスって」

【ヒロイン「そういうコンセプトかと…」】

柚原「人間のやってる真似事だと思ってたんですか？

ふうん、まだ知名度が足りないらしい…

ま、それもそうか。始めたばかりですしね」

柚原「よく見てください、この羽、それに尻尾」

SE:羽ばたき

柚原「人間は紛い物をつけることはできても、

こんなに自在に動かすことは、できないでしょう？」

【ヒロイン「確かに…」】

柚原「納得してもらえたようで、何より」

【ヒロインがウネウネしてる尻尾を見つめているのに気づいて】

柚原「うん？ 僕の尻尾が気になりますか？

いいですよ、触ってみて。

【ヒロインが尻尾をむんずと掴む】

んっ……ああ、あまり強くは握らないで

繊細な箇所なんですから」

柚原「そう……優しくお願いしますよ……

ふふ、気に入りましたか？

どうです、淫魔だって悪いもんじゃないでしょう

人間の男よりずっと、できることは多いんですから」



【8】

柚原「ん……いつまでそうやって、焦らしてるつもりですか？

尻尾だけ触られ続けるなんて、生殺しだ

僕からも触っていいですよね？」

【ヒロイン「ええと……」】

【7 耳元に寄って、良きタイミングでときどき耳なめしながらお願いします】

柚原「どうしてためらうんです

自分で淫魔を呼んだくせに、とんだカマトトだ

どうせ、人間の男とセックスするつもりだったんですよね？

だったら、淫魔と遊ぶ方がお得ですよ、ねえ」

【1】

柚原「ほら、僕の日を見て

尻尾は挿んだままでいいですよ、そのまま、ゆる〜っくり、

息を吸って……それから、吐いて……

落ち着いてきましたか？

うんうん、よかった」

柚原「今更新しく男を呼んだって、満足できませんよ

僕ほど見た目が良くて、その上『上手い』男なんて、

人間の中には存在しませんから」

【ヒロインためらう】

【7】

柚原「僕なら、あなたが、もうやめてって狂っちゃうくらい、

気持ちよくしてあげられますよ

こんな極上の男が相手なら、淫魔でも人間でも

どうでもいいじゃないですか、ね？【終わり際に耳をひと舐め】「

【ヒロイン了承】

【1 嬉しそうに】

柚原「それじゃ、交渉成立だ」

【7 ヒロインの首のあたりを嗅ぐ】

柚原「ああ、美味しそうな匂い……」

少し汗をかいて……もう興奮してる……」

柚原「ずっとムラムラしてたんですか？　かわいい（笑）

じゃあ今から僕が、うんと気持ちよくしてあげますからね♡」

トラック② これ本当にただのマッサージじゃないですよね
施術に入る柚原。マッサージからのスローセックス

【1】

柚原「それじゃあ、服を脱いでからベッドにうつ伏せで寝転んで」

SE:ヒロイン脱衣の衣擦れ

SE:ヒロインがベッドで体勢を変えるゴソゴソ音

【ヒロインの背中を眺める柚原】

【5】

柚原「綺麗な背中してますね…あ、自分じゃわかんないか

例えばこの、肩甲骨とか…背中の中の真ん中の、くぼみとか…

【背中に一回キス】

はは、敏感なんですね」

【柚原がヒロインの背中にオイルを塗って、マッサージを始める】

SE:ヌチャッ

柚原「そんなに緊張しないで、これはただのマッサージだから

こうやって、丁寧に体をほぐしていくと、

あとでもっと気持ちよくなれるんだよ」



SE:オイルの水音

【5】

柚原「淫魔謹製のオイルはどう？

その人の好みの香りになるように、魔法でちょっと弄ってあって、
しばらくしたら、自然に乾いて布にも残らないの
便利でしょ」

SE:オイルの水音

柚原「気持ちいいですか？ 力は強すぎない？」

【ヒロイン「大丈夫」】

柚原「よかった！

何かリクエストがあれば、なんでも言ってくてくださいね
肩のあたりを重点的に揉んでほしいとか、
腰は強くやってほしいとか」

SE:オイルの水音

【4 グツと近づいて】

柚原「えっちなご要望だって、大歓迎ですからね♡」

SE:衣擦れ(ヒロイン動揺)

【5】

柚原「恥ずかしくならなかったって、良いのに

僕はあなたのことを、いっぱい気持ちよくするためにきたんですよ」

SE:オイル水音

柚原「ねえ、だんだん物足りなくなってきたんじゃないですか？

息、荒くなってるの気づいてますよ

背中ぬるぬるされてるだけで、発情しちゃったんですよね」

柚原「どうやって気持ちよくしてほしいですか？

触られてもないのに、もう興奮して尖ってる乳首で遊ぶ？

それともいきなり、僕のちんぽぶち込んで、

淫魔に無理やり犯されてるフリでもしてみます？

なあんて、うそうそ！」

柚原「乱暴なことはしませんよ、

お客様が是非にというなら、別ですけど」

【背中に何度かキスを落としつつ】

柚原「教えてくれないなんて、意地悪だなあ

良いですよ、それなら僕の好みで進めちゃうから」

【5】

柚原「うーん、どうしようかな…色々案はあるけど……

初回だもんね、ゆっくりやっていこうか」

【柚原、ヒロインの背中側から胸に手を伸ばす】

SE:柚原が動くゴソゴソ音

SE:オイルまみれの背中に柚原が密着した時の、ネチっ（クチャっ？）とした音

【7 耳元で囁く感じでお願ひします】

柚原「ふふふ、ちーっちゃい体。

僕が乗ったかったら、全部隠れちゃうね。

ちよつと重たいかな？ でも、嫌な圧迫感じゃないでしょ？

ほら、そのまま枕抱いておいて。

下に隙間がある方が、やりやすいから」

【6 胸を両手で揉みつつ】

柚原「ふふ、柔らかい

君がうつ伏せで寝るもんだから、

かわいいおっぱいが潰れちゃって、かわいそうに

僕がヨシヨシしてあげるから、元気出して♡」

【背中からオイルが回って、胸にまで達している】

【6】

柚原「たつぷりマッサージをオイル使ったから、

胸にまで垂れてきちゃったね

おっぱいネチネチされるの、気持ちいい？

……隠さなくていいのに

もう乳首も硬くして、興奮しっぱなしだ（笑）」

柚原「まだ胸しか触ってないのに、おしりゆらゆらさせて

僕のマッサージ、そんなに気持ちいいんだ？

嬉しいなあ」

【7】

柚原「これでこんなに気持ちよくなれるなら、

本番の時には、どうなっちゃうんだろうね？」

【7】

柚原「淫魔との本番はね、妊娠の心配も、

病気の心配いらないんだ

ただ直接触れ合えて、気持ちいいだけ

人間同士のセックスより、よっぽどいいでしょ？

安心して楽しんで」

【7 良きタイミングで耳舐めしつつお願いします】

柚原「こんなワルイこと、淫魔としかできないんだから」

SE:衣擦れ (ヒロイン動揺)

【7】

柚原「ふふ、腰跳ねさせて、どうしたの

もう我慢できなくなっちゃった？

ごめんね、焦らしちゃって

可愛いから、ついじっくり味わいたくなっちゃう」

柚原「ね、次は何をしようか？

……教えてくれないんですか？

意地悪だなあ、ふふ

じゃあ……今度はこの寂しがつてるおしりで遊ぼうか」

【ヒロイン「尻はちょっと」】

【6】

柚原「まだうしろは怖い？

大丈夫だよ、あなたが嫌がることはしないから

それならクリトリスはどう？ そっちは好きだよね？」

【ヒロイン頷く】

柚原「よかった！」

じゃあちよつとだけ腰を上げて、そう、上手」

SE:水音

【7】

柚原「はは、もうぐちゃぐちゃだ

ずっと触られるの、待ってたんだ？

僕がうーんと気持ちよくしてあげるから、任せて」

柚原「こうやって、指でぐりぐりされると気持ちいいよね

声、我慢しないでいいよ

全身でびくびく跳ねて、きゃんきゃん鳴いて、

僕に気持ちいいって教えてよ」

【7】 良きタイミングで耳舐めしつつお願いします」

柚原「ふふ、かーわいい

ちよつと強くされるくらいが、好みなんだ

いいよ、好きなだけぐりぐりしてあげる

愛液ダラダラ垂らして、お腹の空いた犬みたい

胸も一緒に触られると、もっと気持ちいいね

どっちの方が好き？ 答えらんないか、あははっ」



【7 引き続き耳舐めしつつお願いします】

柚原「我慢しないで、イっていいよ

大丈夫、僕がこうして、抱きしめててあげるから、

思い切り気持ちよくなっちゃえ」

【7 引き続き耳舐めしつつお願いします】

柚原「もっと欲しい？ じゃあ、うんと強めにぐりぐりしちやおうか

あははっ、声もおっきくなっちゃった

可愛いね、もっと聞かせてよ【耳舐めここまで】

ほら、ほら…！」

【ヒロインがイク】

【7】

柚原「……ふふ、上手にイケました」

トラック③「最後まで、とことん」

本番（寝バック）へ

【6】

柚原「もともっとイケるよね、

淫魔じゃないと満足できない体にしてあげるから、

安心して体を預けてね♡」

【7】

柚原「そう…そのまま、リラックスしてて

おしりに、ガチガチになった僕のが当たってるの、わかる？

実はね、さっきからずっと我慢してたんだ」

柚原「お預けなんて、言わないよね？

そんなことされたら、淫魔がどんなに辛いか、わかるでしょ？」

【7 良きタイミングで耳舐めしつつお願いします】

柚原「想像してみて、このビッチョビッチョに濡れたおまんこにさ、

僕のを一気に根元まで入れたら、どんなに気持ちいいか

淫魔のちんぽ、試したことある？

ふふ、ないよねえ」

【7 引き続き良きタイミングで耳舐めしつつお願いします】

柚原「どんな敬虔な聖職者でも、

すぐにぐずぐずになって、抵抗できなくなっちゃうくらい、

気持ちいいんだよ

まあ、君は聖職者じゃないんだから【耳舐めここまで】

思う存分楽しめばいいんだけど、ね♡」

SE:挿入

【5 うっとり】

柚原「あっ…はあ…：気持ちいい…

ごめん、我慢できなかった♡

どうしよう？ 抜いたほうがいいかな？」

【ヒロイン「大丈夫」】

柚原「だよね（笑）

こんなに濡れて、うねって、

僕のことを嬉しそうに歓迎してるんだから、

きっと大丈夫だと思った（笑）」

SE:ハハからピストン（低速）



【ゆっくりピストンしながら】

柚原「淫魔のちんぽも、悪くないでしょ？」

長くて、太くて、君の気持ちいいとこまで余裕で届いて、

君の中を余すところなく、ずりずりこすって

ああ、また声我慢しようとする

ちゃんと気持ちよくなってるよ、曝け出して」

柚原「君がどうやってたら気持ちよくなれるか、僕に教えてよ」

SE:ピストン（中速）

【だんだん激しく、興奮していく感じをお願いします】

柚原「はは、喘いでるだけじゃ、わかんないなあ

どうして教えてくれないの？ 意地悪（笑）

このまま続けるのがいい？ それとも、もっと激しく？

ははっ、すごい音。部屋中に響いてる

激しいのが好きなんだ、僕もだよ」

柚原「窓、閉めておいて、良かったねえ

でもあんまり大きい声出すと、流石に聞こえちゃうかな？

僕は気にしないけど、君はどうしたい？

いっぱい鳴いて喘いで、

ご近所さんに自分が淫乱だって知ってもらおう？」

柚原「そしたらもう、

淫魔としか口聞けなくなっちゃんじゃない？

ふふ、いつでも気軽に呼んでよ。

僕が慰めてあげるから」

SE:ピストン加速

柚原「ふーん、これでも興奮しちゃうんだ

淫魔を気に入ってくれたみたいで、嬉しいよ

じゃあもっと激しくしても、大丈夫だよね？

ああ、気持ちい

人間って、どうしてこんなに…ふふっ…」

【ピストン5秒程度の呼吸をお願いします】

柚原「ねえ、もっと乱れてよ、もっと、もっと

アンアン鳴いて、腰動かして、

目一杯気持ちよくなってる？」

柚原「はあ、だんだん、中が狭くなってきた…っ」

【5秒程度ピストンの呼吸をお願いします】

【3 耳元に近づいて】

柚原「もういっちゃいそう？

いいよ、じゃあこのまま、

奥の方ガンガン突いてあげるから、

思い切りいっちゃえ、ほら、ほらっ

【10秒程度ピストンしたのち、良い感じのタイミングで射精してくだ

さす】

SE:射精（ピストンここまで）

【4】

柚原「はー………気持ちよかった……

ねえ、わかるかな

いっぱい出しちゃったから、君の中、僕の精液でいっぱいになってる」

柚原「こぼれると勿体無いから、奥まで押し込んだらどうか

えい（笑）」

【ヒロイン、刺激で声を上げる】

柚原「あはは、かわいい声

ずーっと聞いてたくなる」

柚原「もっと聞きたいな、えい…【ゆっくり2度腰を動かす】」

柚原「あはは、ごめんごめん

ちよつとしつこかった？

もうしないから、許してよ、ね（笑）」

SE:水音

【ヒロインから陰茎を抜く】

柚原「…名残惜しいなあ、人間の中ってあったかくて、好きなんだよね。

できるなら、ずーっとこのまま挿れておきたいくらい」

【5】

柚原「体、起こせる？

ちよつと激しかったから、疲れちゃったよね。

そのまま、力抜いてて

僕が起こしてあげる……うんしょ」

【ヒロインと柚原が向き合う形になる】



【1】

柚原「こうやってずーっと、ぎゅっとしてたいな
それで君が回復するたびに、またエッチするの」

【3 耳元に顔を寄せ】

柚原「ねえ、

僕、淫魔だから君が望むなら、

何回戦だってできるよ？

だめかな？」

【ヒロイン「ダメじゃない」】

【1 嬉しい驚き】

柚原「ほんとに!？」

え、ほんとにいいの!?

柚原「僕を気に入ってくれたってことだよね、嬉しいなあ！

じゃあもつともーっと、気持ち良くしてあげるからね」

トラック④ 実力を発揮し切る前に 相手の棒が折れていくらしい
騎乗位で2回戦目、ヒロインの性豪が発覚する

【1】

柚原「じゃあ、今度は向き合ってしよっか♡

さっきは顔を見てできなかったから、

次はいっぱい気持ち良くなつてるところを見せて？」

【ヒロイン「今度は私が上に乗る」】

【きよとんとして】

柚原「え？ 君が上に乗るの？」

そりゃあ僕は嬉しいけど……

でも、君はそれでいいの？

せっかくなんだから、もっと楽したらいいのに？」

【ヒロイン「あんまり好きじゃない？」】

柚原「……君がそうしたいのなら

【3 耳元に近寄って】なんだって、お望みの通りに」

【柚原がベッドに仰向けになる】

SE:二人がガサゴソする衣擦れ

【9】

柚原「……なんか、いい景色だな。

下から見上げるって、新鮮。」

【ヒロインが柚原の上で腰を落とす】

【ゆっくり挿入され、気持ちよさそうに】

柚原「あ…もう挿れちゃうの…？」

んん……っ」

柚原「はあ…気持ちいい

僕が出したせいで、中がぐちゃぐちゃになってて……

いや、僕のだけじゃないか、ふふ」

【ヒロインがゆっくりと動き出す】

SE:ハハからピストン (低速)

【ここからいい感じに吐息など織り交ぜながらお願いします】

柚原「あ、あ、いい…大丈夫だよ、君の好きなように動いて

かわいい、自分で動いてるのに、声漏れちゃうんだ」



【9】

柚原「君が、上下するたびに、

おっぱいが揺れてるの、わかる？

僕が支えてあげる（笑）」

【柚原がヒロインの胸に手を伸ばす】

柚原「どこを触られても感じるね

僕の体に垂れるくらい濡らして、えっち♡

奥ぐりぐりするのが好き？

いいよ、僕のちんぽ、好きに扱って

君が気持ち良くなってるよ、もっと見せて？」

SE:ピストンがさらに低速になる

柚原「疲れてきちゃったの？」

ああ、気持ち良すぎて動けなくなってきたんだ」

【ヒロインの腰を掴み、自分から強目にピストン】

柚原「君って、本当に、かわいい、ねっ」

SE:ピストン中速

【9】

柚原「あーっ…だめだ、君があんまり誘惑するから、

我慢できなくなっちゃった

ああ、気持ちいい…っ

君が気持ちよくなるたび、ぎゅうぎゅう僕を捕まえてて、

離したくないみたい」

柚原「いいよ、満足するまで、ガンガン突いてあげる…っ

僕の上に寝転がって、ぎゅってして？」

【1（ヒロインが接近してきたため）】

柚原「そう、いい子。

全身がピツタリくっついて、気持ちいいね♡」

【3】

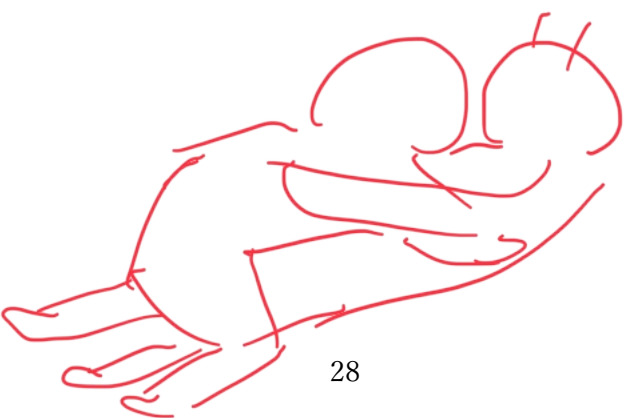
柚原「おっぱい触れなくなったから、

代わりにこっちを気持ち良くしてあげる

好きだもんね、耳じゅるじゅる舐められるの

僕には君の好きなこと、なんにも隠さなくて大丈夫だよ

【耳舐め5秒程度お願いします】」



【3】

柚原「うん、うん♡ 気持ちいい♡

ほら、もっと気持ち良くしてあげる

ちよつと乱暴にされるのも、好きなんだもんね」

SE:ピストン高速

【3】

柚原「こら、腰勝手に動かさないで

ちゃあんと。僕のちんぽ受け止めて？

できるよね、さっきだって、

僕にメチャクチャにされても、気持ちいいくって喘いでたし」

柚原「イキそうなら、我慢しないでいっちゃえ♡

【ピストン5秒程度お願いします】

ほら、ほらっ、ほらぁ！【射精】」

【ヒロイン&柚原絶頂】

SE:ピストン5秒まで

【1 ちょっと疲れた感じで、余韻に浸りつつ】

柚原「はーあ…気持ちよかったね

あはは、二人とも汗だくだ

満足できた？」

【ヒロイン「何回戦でもできるんだよね？」】

【あれ、なんか思ってた感じと違うな？みたいな若干の動揺】

柚原「ん？ うん。

僕は淫魔だからね、人間の男よりずっと持久力はあると思うけど」

【ヒロイン、再び動き始める】

SE:♫ストーン低速

【1 びっくりしつつ、気持ち良くなってる感じをお願いします】

柚原「んっ、はあっ…もう一回、するの…!？」

すごいな、大抵のヒトは、一回したら満足して、

動けなくなるのに……こんな…何回も…ん…っ」

柚原「もっとしたい？」

【覚悟を決める深呼吸（スウー…ッ）】

うん、わかった

絶対満足させてあげるから、任せて♡」

SE: (1日) 陰茎を引き抜く水音

トラック⑤ 寝具に果てろ

正常位で3回戦目、尻尾など全身を使い柚原が本気で挑む

【1】

柚原「今度は、僕が上」

SE:二人がベッドの上でガサゴソ動く衣擦れ

SE:ベッドのきしみ

【正常位の姿勢に】

【9 ヒロインを見下ろし】

柚原「びっくりした、君ってどこの角度から見ても可愛いんだね

他の淫魔に見つからなくてよかった」

【ヒロイン「ねえ早く】

柚原「ふふ、ごめんごめん

焦らすつもりはなかったんだけど」

柚原「それじゃあ、挿れるね……っ 【挿入】」

SE:水音

SE:ピストン低速（ヒロインが勝手に動いている）



【9 気持ちよくなってる感じをお願いします】

柚原「あぁっ…だめ、だめだめ、勝手に動かないで…

僕に仕事をさせてよ、いい子だから、ね？」

【おとなしくなるヒロイン】

SE:Justin「一時停止

柚原「うん、いい子…それじゃ…」

SE:Justin中速

【吐息5秒程度お願いします】

柚原「はぁ、こんなに積極的な子、初めて…っ

何回もイッちゃうの、気持ちいい？

気持ちいいよね、こんなにすぐに自分で腰振っちゃうんだから」

柚原「君、もしかして、

普通の男と、あんまり上手く付き合えないんじゃない？

はは、当たり前だ

そうだよ、こんなに淫乱で、何回も何回もしたがる欲しがりさんは、人間じゃ手に負えないよねえ」

【9】

柚原「よしよし、大丈夫だよ。君には僕がいるからね

どんなにふしだらでも、嬉しいだけだから

何回でも何万回でも、こうやって、気持ちよくなろうね

いい子、いい子」

【吐息数秒お願いします】

【7 耳元で】

柚原「ムラムラした時は僕を呼んで、

こうやって満足するまで、えっちしようよ

何でもしてあげる

君がお腹いっぱいになるまで突いて、キスして、舐めて、

触って、追い詰めて」

柚原「想像するだけで気持ちいいの？ かわいいね

でも、もーっと気持ちよくなるよ

淫魔の尻尾が、どうしてこんなに長くて、柔らかくて、

ツルツルしてると思う？」

【尻尾をヒロインの口元へと寄せる】

【1】

柚原「ほら、僕の尻尾を舐めて

舌で先端から、下の方まで、君が欲しい長さの分
ん、気持ちいい…そう、上手だね…

まんべんなく、丁寧に…はあ、うん、ああ……」

柚原「よくできました

ふふ、結構下まで舐めたね、えっち♡」

SE:ピストン一時停止

柚原「じゃあ、これを、君のお尻に入れちゃおっか

大丈夫、もっと気持ちよくなるだけだから」

【7 いい感じに耳舐めしつつお願いします】

柚原「ほら、こっちに集中して

そのまま、体の力を抜いて…

いい子、いい子

気持ちいいね、大丈夫、怖くないからね

いくよ、ゆーっくり……」

SE:尻に挿入される音（可能なら膣より重いズブって感じの音をお願いしたいで

す）

【7 耳舐め続行しつつお願いします】

柚原「ほら、先端が入っちゃった

ちよつと苦しい？ 大丈夫だよ、すぐ気持ちよくなってくるから

淫魔の尻尾って柔らかいから、痛くないでしょ？

ん：君のお尻の穴、キツくて、ぎゅうぎゅう僕を締め、

奥の方まで、飲み込もうとして：【耳舐めここまで】」

【7

柚原「ん：まだ違和感の方が大きいかな

ちよつと、深呼吸してみよっか

【ゆっくりした口調で、優しく】

吸ってー、吐いてー……」

柚原「ふふ、君が息をすると、尻尾が気持ちいいな

もう一回：吸ってー、吐いてー

…だんだん、馴染んできたでしょ

前も後ろも、僕でいっぱいになって嬉しいね

このまま思い切り動いたら、どうなっちゃうか、試してみよっか」

SE:ピストン中速

【吐息5秒程度お願いします】

【1 いい感じに吐息交えつつお願いします】

柚原「あははっ、すっごい声

お尻の穴もおまんこも、

気持ちいって、ぎゅうぎゅう僕を締め付けてるよ

僕もね、すっごく気持ちいい

ほら、もっと喘いで

とろとろに溶けたえっちな顔、僕に見せてよ」

柚原「おまんことお尻いじめられるの、大好きなんだ？

いいよ、いーっぱい、いーっぱい虐めてあげる

何回でもイっていいよ、ほら、ほらっ」

【ヒロイン絶頂】※ピストンは続行

【興奮してくる】

柚原「ふふっ、まーたイっちゃった

君の中がビクビクするから、すぐわかるよ

もっとイキたい？ うん、いいよ

何十回でも何百回でも、いっちゃえばいいさ！」

【8 顔を近づけて】

柚原「はあっ、はあっ、だーめ、いったってやめてあげない

だって君、それがいいんでしょ？

何回も何回もおまんこトントンされて、

でも許してもらえなくて、またイっちゃうの好きなんでしょ？

頭真っ白にして、めちゃうくちゃになっちゃえ」

SE:ピストン高速

【1】

柚原「まだいけるよね、ほら、がんばれ、がんばれ♡

もっと気持ちよくなって、もっと、もっと、ほら——っ」

SE:スマホのアラーム

SE:ピストン停止

【虚を突かれて】

柚原「…………え？」

SE:ヒロインがスマホに手を伸ばす衣擦れ

SE:ピッ (アラームが止まる)

【16 欲情の空気が霧散して、なんとなく嫌な予感】

柚原「…………なんのアラーム？」

【ヒロイン「明日、早いから」】

柚原「そう、なんだ…明日…用事が……

えっと、つまり、もう寝る時間…ってこと…?」

【ヒロイン「そう」】

【16 困惑】

柚原「えっ、ええ〜〜〜？」

【呆然】

柚原「そっか…明日早いなら、うん…仕方ないね…」

明日の用事なんかどうでもなるくらい、

バカになっちゃたりはして——して、ないんだ…

あと一歩だったんだ…ふうん…

…アラムに負けたのなんか、初めてだよ…

柚原「…また、呼んでくれる？」

【ヒロイン「もちろん」】

柚原「わかった…約束したからね」

SE:陰茎を抜く

【1】

柚原「絶対だからね、本当に

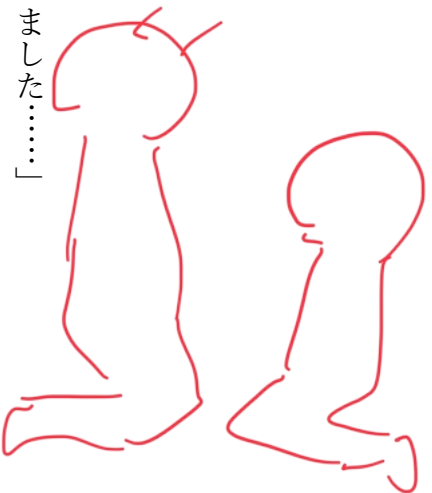
次はどんな用事があるうと、気にもできなくなるくらい、
めちゃくちゃにするからね！」

【ヒロイン「わかった」】

SE:ヒロインが体を起こし、向かい合う

【1 しおしお】

柚原「それじゃあ今夜は、ご利用ありがとうございます……」



柚原「約束しましたからね。

次も、僕に電話をかけてください、ね？

じゃあ、小指だして」

【ヒロインと小指を絡める】

柚原「ゆーびきーりげーんまーん、嘘ついたらはーりせんぼんのーます

ゆびきった」

柚原「……じゃあ、今夜はおいとまします

またのお呼び、お待ちしておりますからね

それじゃ、おやすみなさい【ヒロインの額にキス】」

SE: 柚原のゴソゴソ音

SE: 窓を開ける

SE: 羽ばたく音

【9 遠くから】

柚原 「約束だからね〜！」

SE: 窓を閉める音

SE: ヒロインが寝直す衣擦れ



トラック⑥ またこの部屋で電話をかけて

前回の呼び出しで無念の途中解散を強いられた柚原。

プライドを傷つけられた彼は、次こそはメチャクチャにしてやると誓っていたものの、ヒロインが多忙だったために一ヶ月のお預けをくらう。

その間にずっとヒロインのことを考えていたせいで、自家中毒的に執着を持ってしまった柚原の元に、疲労困憊で疲れマラ状態のヒロインが電話をかけてくる。↓リベンジ的濃厚セックス

SE:発信音

SE:ピッ (応答)

【7 拗ねてる感じ】

柚原「……もしもし

淫魔デリヘルのハニーポットハニーです」



【ヒロイン「柚原さん？」】

柚原「フーン、覚えててくれたんだ。

もうずっと電話が来ないから、忘れられたかと思ってた」

【ヒロイン「ずっとって…一月くらいじゃない」】

【7 ムツとして】

柚原「そう、一月も、だよ。」

僕のこと焦らして、楽しかった？ いじわる

あんな中途半端なところで終わらせて、

こんなに長い間放置するなんて」

【ヒロイン、柚原のテンションに思わず謝る】

柚原「…まあいいよ

こうして、また電話してくれたわけだしね」

柚原「今日はまた、僕のこと呼んでくれるの？」

【ヒロイン「うーん」】

柚原「煮え切らないなあ、じゃあどうして電話してきたの

……んん？　なんか、声疲れてる？」

【ヒロイン「最近忙しくて」】

【一転して、気遣わしげに】

柚原「そっか…本当に忙しかったんだね

それで今日やっと、お休みになったの？」

【ヒロイン「任意の返答」】

柚原「ふうん、それはお疲れ様だ

【残念そうに】……それじゃ、今日には行かない方がいい？」

【ヒロイン「むしろ来て」】

柚原「疲れてるのに、僕を呼び出すの？

……僕は淫魔だから、できることは限られてるよ

他の悪魔みたいに、対価と引き換えで願いを叶えるみたいなことは、
できないんだけど……」

【ヒロイン「でもあなたに来てほしい」】

柚原「へえ、淫魔の僕がいいんだ

君って本当に……ふふ、でも」

SE:窓が開く音

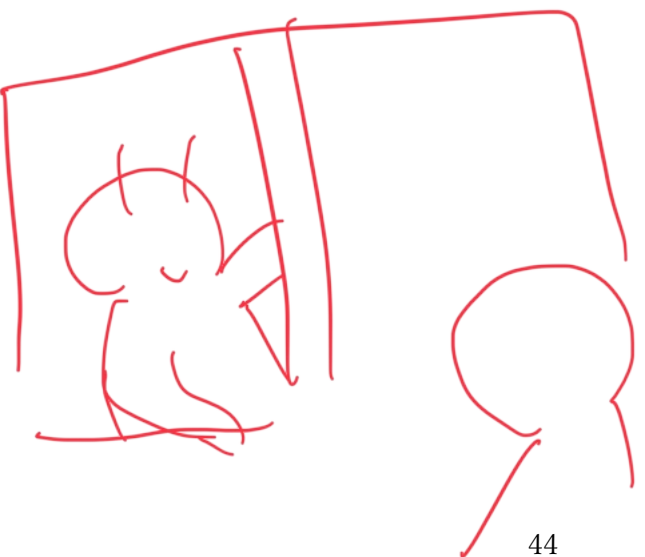
【7 おもむろに窓から入ってきてご機嫌に】

柚原「そう来なくっちゃ」

SE:柚原が窓から入ってくるゴソゴソ音

SE:窓を閉める音

SE:柚原がヒロインに向き合う衣擦れ



【1 久々に会えた嬉しさにちょっと声が弾む】

柚原「久しぶりっ」

柚原「僕がすぐ来てびっくりした？」

実は電話が来た時点で近くまで来てたんだ、ふふ」

【ヒロインの顔を見て、気遣わしげに】

柚原「……疲れた顔。頑張ってたんだね

今日はマッサージだけにしておく？

君が、人間たちのくだらない営みで損なわれるなんて、

僕にはとても耐えられないよ」

【ヒロイン「……とりあえず抱きしめてほしい」】

柚原「抱きしめるの？ いいよ、わかった」

【3 抱きしめて、耳元で】

柚原「はい、ぎゅ〜…これでいい？ もっと？ いいよお

ぎゅ〜〜〜〜っ」

【1 やや密着を解いて】

柚原「満足した？ そう、よかった

うんうん、よく今日まで耐えてきたね」



柚原「ほら、ベッドに寝転んで

僕がじーっくり、ゆーっくり、ほぐしてあげるから」

【ヒロイン「そんなことよりセックスがしたい…」】

【3 耳元で囁き】

柚原「なんだか今日は、やけに積極的だね

マッサージなんかすっ飛ばして、セックスがしたいんだ？

いいけど、体は大丈夫？

淫魔の僕に気を遣って、一応セックスしときたいとかなら、

別に今じゃなくても大丈夫だよ？」

【ヒロイン「違う」】

【1】

柚原「だったらいいけど

僕的には、願ったり叶ったりだ

そうか、君って、疲れやストレスも性欲に変わるタイプなんだ

ふふふ、僕は好きだよ。

セックスが一番得意だしね

それで君が癒せるなら、一石二鳥だ」

【1】

柚原「それじゃ、今までの嫌なこと、

ぜーんぶ分かんなくなっちゃうくらい、

気持ちよくて、ドロドロのやつしよっか♡」

SE:ヒロインが押し倒され、ベッドに体を投げ出す音(ドサツ)

SE:ベッドが軋む音(ギシッ)

【1 ヒロインを押し倒した状態で】

柚原「あはは、かわいいな…押し倒されるのは嫌いじゃない? よかった

…いつもの僕だったら、マッサージだけでいいよなんて口だけで、

普通にしばらくしたら、セックスに持ち込むんだけどさ

どうしてかな、今日はただ君が癒やされるなら、

それだけでいいやって思ったんだ」

柚原「まあ、君が望むから今からセックスはするんだけど」

柚原「ああ…でも、最初にさ、

【ちよっと緊張しつつ】……………キスしても、いい?」

【ヒロイン「はいよ!」】



【1 嬉しそうに】

柚原「やった…！」

……変だよね。

今更キスなんかで、改まっちゃって

こんなこと、初めてだ……」

【1 合間合間でバードキスしつついい感じに喋っていたみたいです】

柚原「ん…ちゅ…はあ……」

唇、ふわふわ……

あー、なんか…こんな、ちゅーだけで僕、嬉しくなれるんだ…

変な感じ…すっごく……」

柚原「ね、口開けて……そのまま、舌出して

もっと深いやつしよ？ はあ…

【ディープキス数秒間、良きタイミングで終わってください】

柚原「服、脱がすね……」

そのまま、じっとしてて……」

SE:服を脱がせる衣擦れ

柚原「はあー、なんでこんなドキドキするんだろ……」

ちよつと僕、余裕なさすぎで引いてない？ 大丈夫？」

【ヒロイン「ううん」】

【1】

柚原「そう？ ならいいけど

あのね、言っとくけど、いつもはこんな感じじゃないからね

……知ってるよね、最初はもっとスマートにやれてたと思うし」

【ヒロイン、柚原のあまりの変わりようにウケる】

【ムツとして】

柚原「笑わないでよ、一杯一杯なんだから」

【1 胸に触れつつ】

柚原「……柔らかいおっぱい

なんかさ、僕が触るより先に乳首たってたよね

もしかしてだけど、興奮してた…？

そうだよね、興奮してたんだよね

僕だけじゃなくて、君も」

【柚原がヒロインの股間に触れる】

SE:水音

柚原「すっごい…こんなに濡らして、美味しそう……」

【1 マイクに向かって下方

ここからクンニしつつ、良きタイミングでセリフ挟みつつお願いします】

柚原「ん、恥ずかしがらないですよ……」

クンニされるのも、好きでしょ？

だってほら、舐めるはしから、こんなに、溢れて……」

柚原「足、閉じないで

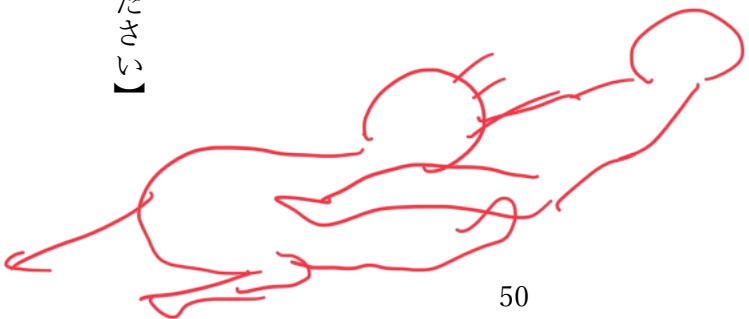
力を入れたいなら、僕のツノでも握っていなよ

ん、そうそう……

大丈夫だよ、痛くないから」

【ここから数秒程度クンニして、良きタイミングで終わってください】

【ヒロイン絶頂】



【股間から顔を離し】

柚原「はは、すぐイツちやった

気持ちよかったんだね、嬉しいよ

なあって悔しそうな顔してるの

心配しなくても、

これから何回でも、イかせてあげるから、ね♡」

トラック⑦ 永久指名

トラック⑥の続き

SE:姿勢を変えるゴソゴソ

【1 ヒロインに覆い被さるポジションへ戻る】

柚原「君ってさ、Sなの？ それともM？」

僕がこうやって覆い被さると、嬉しそうな顔するよね

でもこの間は、僕に乗っかって、いっぱい腰振って……

どっちでもいいけどね、君に喜んで欲しいだけだから」

【ちょっと考えて、ヒロインの性癖を察する】

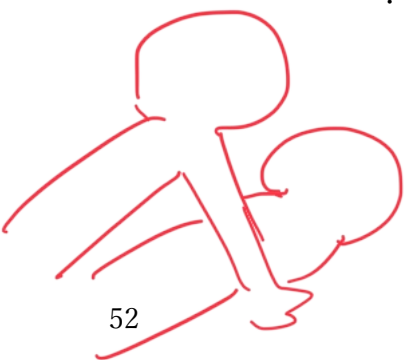
柚原「……うーん、そうか

本当は相手に全部やってほしいんだけど、

それだと満足しないうちに終わらされて、

不完全燃焼になるんだ……

人間は情けないね、僕ならそんな思いはさせないのに……」



【1 陰茎をヒロインの股間に押し付けながら】

柚原「ね、僕のちんちん、もう君に挿れたくてガチガチになってる
わかる？ わかるよね

さつきから君のおまんこに、ぐりぐり当ててるんだから

クリトリス、僕ので潰されて気持ちいい？

早く欲しくて、腰がびくびくしちゃうね」

SE:水音（ネチ…みたいな音）

柚原「聞こえた？

君の愛液が僕のに絡み付いて、ぬるぬるして、

こんなやらしい音出して…：うん、僕も限界

君とひとつになりたいんだ、いいよね？

【挿入と共にいい感じの吐息お願いします】

SE:挿入

柚原「はぁー、どうしよう、無理…っ

焦らして、いっぱい“おねだり”して貰いたかったんだけど、

…：ごめん、動くね」

SE:ピストン中速

【1 ここから、いい感じに吐息交えつつお願いします】

柚原「ああ、やばい、気持ちいい…っ

ねえ、君もさ、僕のこと待っていてくれてた？

忙しくしている間に、

時々、僕のこと思い出してた？」

【ヒロイン「うん」】

柚原「嬉しい…！

僕もね、君からの電話、待ってたんだ

ずっと、ずっと…

一応、仕事だからさ、

自分から連絡するのはダメかなって、我慢してたんだけど」

柚原「君からの着信だって気づいた時、僕がどんなに…っ

はは、ごめんごめん、セックスしてる時に、話す話題じゃなかったね

大丈夫だよ、何も考えなくて

【7耳元で】いっぱいおまんこズポズポして、気持ちよくなっちゃおうね」

【数秒程度吐息お願いします】

柚原「気持ちよさそう

いっぱい声出して、体のけぞらせて、

気持ちいいので、全身いっぱいになっちゃおうね」

【1】

柚原「大丈夫だよ、全部僕にさらけ出して

僕の手を握ってて

ぎゅっとしててあげるから、怖くないよ

体が勝手に逃げ出そうとしても、

僕がしっかり押さえつけてるから、へーき」

【数秒程度吐息お願いします】

柚原「もうイっちゃう？

もちろん良いよ、このまま君の大好きな奥いじめて、

思い切りイっちゃおう」

【7 耳元】

柚原「僕に集中して？ そう、良い子。

こうやって僕の声聞いて、僕のこと考えて、僕のちんぽでイッちゃおうね

ほら、がんばれ、がんばれ、さーん、にーい、いーち」

【ヒロイン絶頂（※ピストン続行）】

【1】

柚原「よくできました」

いっぱい気持ちよくなれて、偉いね

前回ハンパに終わっちゃった分もさ、

今夜取り返そうよ、ね」

柚原「あはは

イっても止めてもらえないの、そんなに良いんだ」

柚原「うんうん、だんだん全部、わかなくなってきたね

頭の中、ふわふわしちゃうね

よしよし、このまま頭の中気持ちいいだけでいっぱいにして、

なーんにもわかんなくなっちゃおうね」

柚原「お尻にも欲しいの？

はは、もちろん

君のお気に入りの淫魔しっぽ、

狭くてぎゅうぎゅうのお尻に、ねじ込んじゃおうね」

SE:尻に挿入

柚原「奥まで啜えられたね、さすが

尻尾が内側から押し返して、苦しいくらいなんじゃない？

フゥン、それも気持ちいいんだ、変態♡」

【数秒程度吐息お願いします】

【1】

柚原「人間に、こんなことできる？

できないよね

君はもう一生、淫魔でなきゃ満足できなくなっちゃったんだ」

SE:ピストン停止

【3 ピストンを一度止め、耳元に寄って真剣みを帯びた声音で】

柚原「ねえ、僕がいないと生きていけないって言ってよ

僕ならこうして、君が満足するまで抱き続けるし、

体力が衰えることだってない

それに僕、他にももっと、色々できるよ

試してみたいでしょ？」

【ヒロイン「うん」】

【1】

柚原「それでこそ君だ

じゃあ、契約しようよ

淫魔にとってセックスは大事なお仕事だから、

君だけとはいかないけど」

【1】

柚原「君が呼ぶなら、真っ先に駆けつけるし

誰より大事にしてあげる

だからさ、君も僕を一番のお気に入りにしてよ

ね、いいでしょ？」

【ヒロイン「うん…うん」】

【1 喜色満面】

柚原「ほんとに？ いいの？ キャンセルも変更も、なしだからね？

淫魔にクーリングオフ制度なんて、ないからね」

SE:ピストン中速

【1 ピストン再開】

柚原「それじゃ、お望み通り、僕がしっかり、満足させてあげる」

【数秒程度吐息お願いします】

柚原「約束だよ

明日も、明後日も、それから明々後日も

君が求めるのは、僕だ

たまには他の味見をしたっていいけど

ちゃんと僕を一番にしてね」

【3】

柚原「君が先に、僕を無茶苦茶にしたんだから、
それでやっつと公平だ」

SE:ピストン 高速

【吐息10秒ほどお願いします】

柚原「ずっと一緒だよ、僕の可愛いヒト【額にキス】

これからもずっと、ずっと、

いっぱい気持ちいい事しようね…っ」

【10秒程度の吐息の後、射精】

トラック⑨ 性の特権

ピロートーク

コトが終わり布団でダラダライチャイチャしている二人
穏やかな空気が流れている。

SE:衣擦れ (二人の身じろぎ)

SE:ベッドが軋む音 (柚原が仰向け→うつ伏せの姿勢になる)

【8】

柚原「【満足のため息】……気分はどう、お姫様？」

【ヒロイン「満足」】

柚原「そう、よかった

僕も大した淫魔なわけだ

前代未聞の性豪に、こうしてご満足いただけただけだから」

【ヒロイン「性豪って」】

柚原「ふふ、ごめんごめん

ちよつと風情のない言い方だったね

浮かれすぎちゃった

……君に出会えて、僕がどんなに嬉しいか、

まだわかってないでしょ」



【8】

柚原「淫魔にとってはさ、

セックスってそんなに特別なコトじゃないんだ

そりゃそうだよね、人間にとっての食事と一緒に

多少こだわりはしても、根本的にはただの営みだ

僕だって、何百人と抱いてきた」

柚原「でもね、その中の誰一人、

君みたいに求めてくれはしなかった

僕が本気を出せば相手が正気を失うし、

手加減すれば僕の方が不完全燃焼だ」

柚原「思いつきり抱いても壊れないヒトなんて、初めて【額にキス】」

【ヒロインうとうとし始める】

柚原「うん？ 眠くなっちゃったの？

ふふ、今夜はたくさん運動したもんねえ」

【7 耳元に寄って】

柚原「いいよ、君が眠るまで、ここにいてあげる。

だから安心して、目を閉じて

おやすみ、僕の特別なヒト【一瞬耳舐め】」

おしまい